

保険薬局における骨粗鬆症早期受診へのアプローチ

○土田雄司¹⁾、桑畑 博文²⁾

¹⁾ 総合メディカル(株) そうごう薬局 周船寺店 ²⁾ そうごう薬局 野方店

【目的】

骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011 年版において、骨粗鬆症の患者は 40 歳以上で約 1300 万人と推定されているが、その約 8 割は未治療であると言われている。同ガイドラインでは、FRAX®（骨折リスク評価ツール）を用いて、脆弱性骨折の歴なく、YAM70～80%で FRAX®15%以上の患者を薬物治療開始の目安としている。そこで、保険薬局にて別疾患で来局される患者を対象に、骨密度測定歴などの聴取と FRAX®を用いた骨折リスクの評価を行い、早期受診の啓蒙の必要性について検討した。

【方法】

①2013 年 5 月～7 月の間で、そうごう薬局近隣 10 店舗に来局した患者のうち、同意を得た 40 歳以上の患者 134 名について、骨密度測定歴や骨粗鬆症リスクの高い薬剤使用有無の聴取、FRAX®による骨折リスク評価を実施した。

②FRAX®の値は、60 歳以上で 15%以上を示す患者を骨折リスクの高い群として解析した。

【結果】

①参加した 134 名のうち、骨密度測定を行ったことのある患者は 17 名であり、FRAX®の値は 0.4～42%と高齢ほど高値であった。また、骨粗鬆症リスクの高い薬剤を使用している 19 名のうち、骨密度測定を行ったことがある患者は 2 名だった。

②骨折リスクが高いと判断される方は 23 名いたが、この内 12 名は骨密度測定歴が無かった。

【考察】

今回の調査で、骨折リスクが高いと判断される方でも、骨密度測定の実施率が低いことが示された。リスクの高い患者に対しては骨粗鬆症や骨密度測定に関する情報提供と受診勧奨を実施した。FRAX®は今後 10 年間の骨折リスクを示すものであるが、継続的にこのような取り組みを通して、地域住民への早期受診の啓蒙を行い、将来の骨折やそれに伴う寝たきりの予防に寄与していきたい。